

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5-23 (電話) 011-572-6655		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年7月9日	評価確定日	平成19年7月21日

【情報提供票より】(平成19年6月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年8月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人, 常勤換算	8.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000円~30,000円	その他の経費(月額)	15,000円 (暖房費11月~3月) 8,000円
敷金	(有) (1ヵ月分)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(5月21日現在)

利用者人数	7名	男性	0名	女性	7名
要介護1	4	要介護2	1		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 81.71歳	最低	78歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団「五輪橋内科病院」	川沿中央医院	こじ歯科医院
---------	-----------------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ポテトタウン北の沢は、自然環境に恵まれた住宅地に位置しており、建物は木造の民家を改装したものであるが、居間は明るく開放的で、大きな窓から四季折々の風景を見渡す事ができる。共用空間には、職員や利用者の作品が飾られ、レトロな木製家具が配置されているなど自宅のような居心地の良さを演出している。家賃は低額に設定されており、管理者は、心からの笑顔、仕事の引継ぎ中でも利用者へ背中を見せない、自分たちの親以上のお世話を心がける、などの信念で、職員の指導に当たっている。熱心な管理者の指導のもとに、職員は明るい笑顔で、きびきびと利用者へ接している。利用者の表情もゆったりと穏やかである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム開設間もないため、今回の外部評価が初回であるが、今回の自己評価の実施には職員全員で取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての自己評価であるが、自己評価の実施には職員全員で取り組み、その内容を参考に、改善に向けての検討会を行い、実践できるように取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、現在までに2回実施されている。ホーム側からは、地域に向けて、ホームとしてできること、やりたいことなどを提案している。出席者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いしている。今回のサービス評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、さらに、サービス向上に生かしていく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めており、出された意見や要望はミーティングにて、話し合い、反映させている。玄関に苦情受付箱を設置しているが、現状ではあまり活用されていないため、今後は、無記名のアンケートなどを検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、班単位のゴミステーション管理を担当しているほか、盆踊りなどの地域行事にも積極的に参加している。また、近隣の住人とは、日常的に野菜や切花、鉢植えの花をいただいたりする関係である。運営推進会議では地域との交流をテーマとした話し合いを行なっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、実践していく決意を表明し、反映した理念にするために、従来の理念に、「住み慣れた地域での安心した暮らし」を加えた新しい理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の新規採用時の研修に理念を伝え、理解してもらっており、毎月の月例会での職員研修の際にも、具体的なケア理念とのかかわりについて話をし、理念の意義を認識できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、班単位のゴミステーション管理を担当しているほか、盆踊りなどの地域行事にも積極的に参加している。また、近隣の住人とは、日常的に野菜や切花、鉢植えの花をいただいたりする関係である。運営推進会議では地域との交流をテーマとした話合いを行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価であるが、自己評価の実施には職員全員で取り組み、その内容を参考に、改善に向けての検討会を行い、実践できるように取り組んでいる。	○	自己評価と外部評価の結果を踏まえて反省や改善に向けて具体的に検討し、実践していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在までに2回実施されている。ホーム側からは、地域に向けて、ホームとしてできること、やりたいことなどを提案している。出席者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いしている。	○	今回のサービス評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、さらに、サービス向上に生かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隔月開催の管理者会議を通じて市区の担当者との連携はあるが、市の窓口を訪問して情報提供を行うなどの取り組みはない。	○	市の窓口を訪問して情報提供を行ない、市と協力してサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の状況について話し、個別に電話で連絡もしている。毎月1回「主治医の診断・所見」と「介護担当者の感じた変化の要点」、「ホーム便り」を郵送している。出納明細についても毎月家族の来訪時に確認してもらっており、訪問できない家族には、定期的に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めており、出された意見や要望はミーティングにて、話し合い、反映させている。玄関に苦情受付箱を設置しているが、投入用紙には記入者の名前と利用者との関係を明記しなければならず、あまり活用されていない。	○	家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、無記名のアンケートなどの実施が期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため職員の異動はほとんどない。職員の異動があった場合は、利用者には個別に対応し、家族等には、ホーム便りの担当者によるお知らせの欄に記載して報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で、毎月1回定期的に月例会での勉強会が行われているが、現在、勤務ローテーションや費用の関係もあり、職員の育成のための計画的継続的な内部研修・外部研修プログラムは実施されていない。	○	市の窓口や、管理者会議で、勤務ローテーションに無理がないような半日程度の外部研修の情報を入手し、無理のない範囲で研修の機会を確保していくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、管理者が、2ヶ月に1回、管理者研修会の交流会に参加しているが、全職員が地域の同業者と交流を深めるまでには至っていない。	○	区のグループホーム管理者の集まりで、互いのグループホームを職員が訪問しあう取り組みが進められているので、実現を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族等に何回かホームを見学してもらい、試みに一泊するよう声掛けもしている。本人が訪問できない場合は、管理者が訪問している。家族等の協力を仰ぐ時もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対して、人生の大先輩として敬う気持ちを忘れないようにしている。利用者の思い出話や昔話を教えてもらうことで職員も学ぶことが多い。利用者の日々の感謝の言葉に職員はいつも励まされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、把握しようと努めているが、利用者それぞれの視点に立ち、その思いを汲みとり、完全に把握するのは難しい。	○	月例会議での話合いで、常に利用者本人の視点に立って意見を出し合い、検討していく取り組みを期待したい。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の月例会で、利用者が自分らしく暮らせるように、家族や関係者の気づきや意見を反映し、利用者を良く理解した担当職員の視点での介護計画を、全職員で話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の心身の状態は、日々記録と報告が行われており、介護計画も、毎月の月例会で情報を確認し、家族や本人の希望を取り入れながら新鮮な目で見直しを行っている。期間が終了する前であっても、状態が変化した際には検討見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じて、通院や買い物、行きつけの美容院の送迎にも柔軟に対応し、個々の要望に臨機応変に答え、満足度を高めるようにしている。協力医との連携により、医療との緊密な協調体制が取れるように心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に2週間に1回往診をしてもらったり、専門医が必要なときは紹介してもらったり、医療機関と関係を密に結んでいる。本人や家族が希望する、かかりつけ医への受診や通院も希望に応じて対応している。	○	協力医の、診療時間外や夜間等の対応のため、詳細な緊急時の対応マニュアルを作成することを検討しているので、早期のマニュアル作成を期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の利用者の家族とは、終末に関する話が出されることがあるので、家族の意向を聞きながら、話し合いを行っている。	○	今後は、重度化や終末期に伴う対応のあり方に関しての同意書等を作成し、書面に残すように検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念の「自分らしさや誇りが持てる暮らし」の実践として、誇りやプライバシーを傷つけるような言動はしないように、徹底されている。個人情報は見えない所に保管され、職員にも、持ち出し禁止と言う事で、誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしておらず、起床も、利用者個人の体調、気分等にあわせ、個別的な対応を心がけている。折り紙をしたり、植物、野菜の世話等、利用者一人ひとりの気持ちを大切に希望に添った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員の好みを把握し、利用者の希望や体調に合わせて献立が決められている。簡単な、野菜の下ごしらえを手伝ってもらったり、片付けも利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事が出来る雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴日であるが、利用者が希望すれば毎日でも入浴が出来る。バイタル測定等、毎回健康面で異常が無い事を確認し、利用者の状態に合わせて介助が行われている。	○	夏場の汗をかきやすい季節は、利用者の希望があれば、夜間にもシャワー入浴が出来るように検討することを期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草花を育てたり、家庭菜園で野菜を作ったり、折り紙、針仕事等、得意分野で個々の力が発揮してもらえるようにしながら、職員は脇で支えている。夏場は、庭で花火やバーベキューを楽しんだり、芸術の森の陶芸教室等のイベントに参加したりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や気分に応じて、近くへ散歩に出かけたり、買い物、お茶や食事等に出かけている。冬場は外出の機会が少なくなるが、利用者の体調を見ながら、ホームの前にアイスクャンドルを作ったり、雪かきを手伝ってもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、声かけし、さりげなく同行して安全面に配慮している。居間、食堂、台所は見通しが良く、開放感にあふれていて、人の出入りがよくわかるため、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消防計画を作成し、「非常事態マニュアル」に基づき、年2回利用者と共に避難訓練を行っているが、近隣との協力体制は確立されていない。	○	運営推進会議で、出来るだけ早い段階で災害対策についての話をし、地域の方にも、災害時に協力してもらえる体制を取ることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の1日を通しての摂取状況を毎日記録し、職員全員が情報を共有し、個々の食事やおやつに反映するようにしている。利用者それぞれの、味や好み、ご飯の固さにも気を配り、献立が考えられている。	○	関連施設の栄養士に、記録してある献立を見てもらって、栄養バランスのチェックをしてもらい、基本となる週間メニューを作成していくことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく開放的で、大きな窓から四季折々の風景が見渡す事ができる。共用空間には、職員や利用者の作品が飾られ、レトロな木製家具が配置されているなど自宅のような居心地の良さを演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、タンスや椅子、ベットなど、利用者の使い慣れた物で囲まれている。カーテンやカーペット等も、利用者の好みの物で、居心地良く配慮されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。